

【参考資料】

■ 子どもとの意見交換の結果

第2次推進計画の策定にあたり、子どもの意見を聞くため、子ども企画委員会「ぼくらの未来を考えよう！」委員会を設置し、小学5年生から高校生を対象に公募で集まった子どもたちと意見交換を行いました。

意見交換では、子どもたちを3グループに分け、それぞれテーマを「子どもの権利」「子育てしやすいまち」「放課後や休日の居場所、体験活動」としました。各グループでは、最初に職員から現状を説明し、テーマに対する問題点や課題について話し合いを行いました。

次に、こうなってほしい札幌の未来について話し合いを行い、そのために子どもたち自身ができること・すべきことや、大人や市にしてほしいことについて話し合いの結果をまとめました。

1 参加者

小学5年生から高校2年生までの14名。

参加者の募集は、チラシを作成し、各学校や区役所などの公共施設へ配布。

2 実施日

平成26年7月29日（火）10時～15時

3 結果概要

(1) 現状

○ 子どもの権利

- ・ 子どもの権利について
- ・ アンケート「子どもの権利が守られているか？」の結果について
- ・ 権利条例の認知度について

○ 子育てしやすいまち

- ・ 札幌市の子育て施策について
- ・ アンケート「子育てに楽しさと大変さのどちらを感じるか？」の結果について
- ・ ワーク・ライフ・バランスについて

○ 放課後や休日の居場所、体験活動

- ・ 体験活動の内容について
- ・ アンケート「札幌は体験しやすい環境か？」の結果について
- ・ アンケート「放課後や休日の過ごし方」の結果について



(2) 子どもからの意見の概要

○ 子どもの権利

「主な意見」

- ・ 権利条例は知らないが、パンフレットは見たことがあるし、アシストセンターは知っている。
- ・ 自分がというわけではないが、いじめはあると思う。いじめられている人を見てもなかなか声をかけるのは難しい。自分がいじめられてしまうと感じるので、そこは大人になんとかしてほしい。安心して生きる権利は、守られていないことが多いと思う。
- ・ 自分らしく生きる権利が守られて、個性が尊重されるといじめる人もいなくなると思う。
- ・ グループ内には塾に行っている子どもが一人もいなかったが、まわりには毎日習い事に行ったり、塾に行っている人も結構いる。豊かに育つ権利については、守られていると思う。
- ・ 生徒会や学級会など、学校で意見を言える機会はあるが、もう少しふえるといいと思う。
- ・ 今日のように、違う学校や学年の人と話したりする機会が増えるといいと思う。

「まとめた内容」

「ぼくらの未来を考えよう!」委員会 ワークシート

〈テーマ〉 **「子どもの権利」**

1. 現状 「今の問題点や課題は何?」「自分たちはこう思う!」

・人のことを考えられていない。いじめを見て見ぬフリ。
・大勢対1人
・障がい者の人とちゃんと向き合っていない。
・普通の人と違うと決めつけて悪いところしか見ない。
・人の秘密や個人情報を悪用する。
・チャレンジしようとしても、無理だと決めつけられる。
・少し、意見を言える場が少ない。

2. 未来 「さっぼろのまちがこうなってほしい!」

・いじめがないまち!!
・いまの子どもが子どもの権利の条例を守るようになるとその子が大きくなって生まれた子どもも、その子どもの権利の条例を守るようになる!!
・どんな家庭、どんな姿で生まれたとしても、みんな公平で仲良しのまち!
・チャレンジしようとしている人を応援するまち。
・みんなが意見を持ち、それをはっきり言えるまち。

そのために...

・自分たち(子ども)ができること!
・大人や市役所にしてもらいたいこと!

大人や市役所にしてほしいこと。 ・先生と子どもの1対1で会える場所や相談できる場所を設けてほしい。 ・いじめアンケートをもっとみんなに出して、いじめや差別が起きているかもとしてほしい。 また、家でやるようにする。 ・子どもに自信をもたせる接し方をね。	自分たち(子ども)ができること ・人の悪い所ばかりを見ないで良い所を見つける。 ・相手を思いやる!♡♡♡ ・子どもの権利を知っている人が知らない人に教えてあげる。 ・自分の個性や意見に自信をもち、相手の個性もほめる。
---	--

○ 子育てしやすいまち

「主な意見」

- ・ 子育て中の人が多いものを持っているなど、困っているときに助けてあげるとよい。
- ・ 小さい子どもと積極的に関わるようにする。
- ・ 公園などで親と小さい子が遊んでいるときに、その子どもと遊んであげると親の負担を減らすことができると思う。そうして近所の人との関わりを深める。
- ・ 子育てを経験した人がアドバイスできるようにする。
- ・ 1か月に1回は、親が子どもとたくさんふれ合える日をつくるようにする。
- ・ 子どもを安心して預けることができる環境をつくる。
- ・ 雑誌や地下鉄の広告などで子育てのサービスや施設について情報発信をする。

「まとめた内容」

「ほくらの未来を考えよう！」委員会 ワークシート

★
テ - マ 子育てをしやすい街札幌 ★


1. 現状 「今の問題点や課題は何？」 「自分たちはこう思う！」

- ・ 子育てについての情報不足
- ・ 安心して遊べる所不足
- ・ 子育てへの関心×
- ・ 近所でのつながり
- ・ ワークライフバランスを保つ

2. 未来 「さっぽろのまちがこうなってほしい！」

- ・ 子育てをしている人だけでなく地域の人にも関心を持ってもらう
- ・ 親のストレス軽減
- ・ のびのびと育て学校でも楽しめる
- ・ ワークライフバランスによって親も好きなことができる

そのために...



大人

- ・ 情報の提示(もとみんなにわかってもらう)
- ・ 安心・安全の確保(遊具と見守ってくれる人)
- ・ 地域内の協力(その人に合った協力)

子供

- ・ 小さい子供と積極的なコミュニケーションをとる

○ 放課後や休日の居場所、体験活動

「主な意見」

- ・ 放課後や休日に学校の図書館を開放してほしい。
- ・ 学校のグラウンドや体育館でイベントをひらいてほしい。
- ・ 公園でバーベキューができるなど、自由に使えるようにしてほしい。
- ・ 地域の人と関わることが増え、仲良くなると、犯罪が少なくなり、安心してすごせる。あいさつが大事。
- ・ 外でもゲームをしている子どもが多いので、公園で体を動かして遊ぶようにすればいい。
- ・ 違う年代の人とふれ合う機会が少ないので、そうした機会を増やしてほしい。
- ・ 札幌は四季がハッキリしているので、それを生かして地域のイベントなどをするとよい。

「まとめた内容」

「ほくらの未来を考えよう!」委員会 ワークシート

★ 地域の人たちと触れ合ったり交流するためには、子どもが外で過ごすには、

1. 現状 「今の問題点や課題は何?」「自分たちはこう思う!」

- ・ 外であそぶ人が少ない → 自然活動などで外に出る機会を増やす。
- ・ 人のふれあいが少ない → 地域の人たちと交わりをする。
- ・ 公園の遊具の使い方・時期・年代が制限されている → 季節に合わせて使い方を換え、新しい使い方を考える。
- ・ 同じことばかりしている、おぼけている → イベントに参加したり、いつもと違うことをしてみる。

2. 未来 「さっぽろのまちがこうなってほしい!」

- ・ ゴミのないキレイな町
- ・ 町の物をごきげんげいげん
- ・ 自然と触れ合う機会が多いまち
- ・ 地域の人たちが仲のいい町
- ・ 四季を生かした遊具がびびる町

そのために...

- ・ 自分たち(子ども)ができること
- ・ 大人や市役所にしてもらいたいこと

- ・ 地域の人たちにあいさつをする。
- ・ 町のいろいろな所にごみ箱を置いてほしい
- ・ 自然とふれあえるイベントを増やす
- ・ 地域の人たちと遊べるイベントを増やす
- ・ 公園に雪をまかせる時、角に、リリヤリがびびる、安全な山をつく、21歳
- ・ 公園で安全なボール遊びがびびるようにルールをきめてほしい